

新聞掲載

南海日日新聞 R4.7.14

東城中学校 心肺蘇生法を学ぶ 夏休み前に、AEDの実技も

実際にAEDを操作して心肺蘇生の手順を学ぶ生徒ら
12日、奄美市住用町の東城中



奄美市住用町の東城中学校(永井孝典校長、生徒9人)で12日、心肺蘇生法を学ぶ講習会があった。講話や

AED(自動体外式除細動器)の使い方についての実践講習もあり、生徒と教員をはじめ、近隣の保育所の

職員、保護者らも参加。人命救助の一連の流れや心構えについて理解を深めた。同講習は、レジャーなど

野外での活動が盛んになる夏休みを前に毎年実施。救命の知識・技術を身に付け、万が一の事態に備えるのが目的。大島地区消防組合住用分駐所の職員3人が講師を務めた。

講話では救急車が到着するまでに行う心肺蘇生の重要性を説明。2019年に奄美市名瀬の男性が倒れた際に家族が行った心肺蘇生が奏功し、一命を取り留めた事例も紹介した。

その後、タミー人形を用いて実際に胸骨圧迫(心臓マッサージ)を一人ひとりが体験。AEDの講習では生徒3人が機器を操作し、講師の手ほどきを受けながら実践した。見学した生徒も真剣な表情で使用方法を学んでいた。

3年生の林海心さん(15)は「胸骨圧迫の正確なリズムや強さを学ぶことができた。万が一の時は講習を思い出して、冷静な判断ができるようにしたい」と感想。同分駐所の救急救命士福崎輝幸さんは「生徒たちはのみ込みが早く、短時間で集中して覚えてくれた。救命の必要性をしっかりと感じてくれたのでは」と話した。